

絵本と実物資料を組み合わせた展示手法 －企画展「ゲルと草原の物語－絵本原画と生活道具」実施報告

竹田多麻子*

はじめに

企画展「ゲルと草原の物語－絵本原画と生活道具」は、2024年12月にモンゴルの遊牧文化がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを記念して、2025年4月26日（土）から7月6日（日）まで横浜ユーラシア文化館で開催された（図1）。本展では、日本で活躍するモンゴル人絵本作家バーサンスレン・ボロルマー氏とイチンノロブ・ガンバートル氏による絵本原画とともに、そこに描かれているさまざまな生活道具を展示して、モンゴル¹⁾の遊牧生活とチンギス・ハンの時代から現代に至るまでの歴史を紹介した。絵本を活用した展示は、2019年度に国立科学博物館の企画展「絵本でめぐる生命の旅」で、生命の進化を7冊の絵本と化石や剥製の標本資料とともにたどるというものがあるが、今回のような歴史や文化を扱った展示での絵本の本格的な活用は新たな試みといえる。絵本原画と実物資料を共に展示して、絵本から生活道具を、あるいは、生活道具を絵本から探してもらい、観覧者に気づきのきっかけを作ることを目的とした。さらに、モンゴルの遊牧文化の理解をより深めるために関連企画としてモンゴルの移動式住居ゲルの組立解体のイベントや写真展、講座、ワークショップなどを実施し体験の機会を設けた。本稿では、展示に絵本原画を使った取組と関連企画の概要を記録し、取組の成果について報告する。また、展示内容の全体像を示すため、末尾に資料目録を掲載した。

1. 絵本について

モンゴルの絵本といえばモンゴル民話『スーホの

白い馬』が有名であるが、本展では、ボロルマー氏とガンバートル氏が手掛けた絵本を扱った。お二人はご夫婦で、妻のボロルマー氏が絵を、夫であるガンバートル氏が文章を担当して、日本で共に絵本の創作活動を行っている。二人ともウランバートル出身で、モンゴル文化芸術大学美術学部卒業後に2008年来日し、文教大学で絵本を学ばれた。特に、モンゴルの歴史や伝統的な遊牧生活、言い伝えなどをテーマにした絵本を多数出版し、海外でも多く翻訳されている。近年では、翻訳者の津田紀子氏と3人の共作で活動を行っている。

2012年以来、当館ではモンゴル関係のイベントを開館祭等で定期的に開催しており、その関連企画として中区図書館と区内のおはなし会グループことりの会の協力を得ておはなし会を実施してきた。ボロルマー氏とガンバートル氏の絵本の存在を知ったのも、おはなし会の中でモンゴルをテーマにした絵本として読まれていたからである。お二人が幼い時に暮らした草原での生活を基にした絵本は、絵と物語がかもし出す温かみが魅力であり、日本でも大変人気である。おはなし会でも子どもたちが熱心に耳を傾けるだけでなく、大人もその絵と文章に引き込まれる姿をよく目にした。

絵本の魅力の一つは、ボロルマー氏の絵にある。細部にわたって描きこまれた様々な場面は、今やモンゴルでは少なくなっている伝統的な遊牧生活を知る手がかりとなる。これらの絵本の原画を使ってモンゴルの生活を紹介すれば、遊牧生活になじみのない者でも絵本なので親しみやすく、視覚を通して理解を深められるのではないか、という発想が本展を

*TAKEDA Tamako 横浜ユーラシア文化館主任学芸員

企画した原点だった。ボロルマー氏とガンバートル氏の絵本作品はあまた出版されているが、展示テーマと資料に適する絵本として、本展では、次の3冊を中心に構成を組み立てた。

- ①『ぼくのうちはゲル』 さく：バーサンスレン・ボロルマー 訳：長野ヒデ子（石風社、2006年）
- ②『モンゴル大草原 800年』イチンノロブ・ガンバートル 文 バーサンスレン・ボロルマー 絵 津田紀子 訳（福音館書店、2018年）
- ③『トヤのひっこし』イチンノロブ・ガンバートル 文 バーサンスレン・ボロルマー 絵 津田紀子 訳（福音館書店、2015年）

2. 絵本と実物資料の展示への取り組み

（1）展示構成

展示構成は3部構成とした（図2）。絵本の原画作品とその拡大印刷物を用いながら第1部では遊牧生活で使用する生活道具を紹介、第2部ではモンゴ

ルのチンギス・ハンが登場する時代から現代までの800年の歴史を扱った。第3部では、ボロルマー氏の絵画作品とともに、彼女の絵に影響を与えた「モンゴルのブリューゲル」といわれるバルドーギン・シャラヴ（1869-1939）の作品を展示した。次から各部の展示内容や絵本原画の取り扱い等を詳しく紹介していく。

（2）各部の展示方法

第1部「『ぼくのうちはゲル』一草原の遊牧生活」

絵本『ぼくのうちはゲル』（絵本①）は、四季ごとに家畜とともに移動する様子やゲルの組立、家畜の世話など、一昔前の遊牧生活の様子とその道具、民族衣装等が丁寧な描写で表されている。絵本の原画を拡大印刷して、そこに描かれている遊牧の暮らしを実物資料で補完し紹介した。使用した画像は、絵本の4頁、6頁、9頁、10-11頁、12-13頁、17頁、25頁、30-31頁の8点である。資料については、国



図3 展示室風景写真

立民族学博物館（大阪）と豊岡市立日本・モンゴル民族博物館（兵庫県豊岡市）から実際に使用された様々な生活道具を借用させていただいた。第1部は展示室入口入って左側の空間である（図3）。入口を入ってすぐの正面に家畜を連れての移動風景（13-14頁）の拡大画像とともに、ラクダの荷物用の鞍を配置した。企画当初は、展示室内に本物のゲルを展示して資料を展示するという計画も上がったが、スペースの関係で実現はできなかった。そのため、第1部では、進行方向右手の壁に、ゲルの外観を、反対側の左手の壁面ケースにはゲルの内部の様子をイメージできるように絵本の画像と資料を配置した。右手の壁面には、絵本12頁に描かれている牛糞を集めるための熊手や籠、牛車、家畜用の哺乳瓶などの実物資料を展示した（図4）。一方、左手には、通常、遊牧民のゲル内部の家具や道具の配置は決められているため、壁面ケース内もほぼ同じ順番で生活道具を展示した。内部の中心に据える仏壇など宗

教関係の資料は、生活道具とは少し異なるために最後に紹介した。絵本ではゲル内の全体の様子を描いたページが部分的にしかなかったので、18頁の画像を使用した。

解説パネルとしては、1家畜とともに移動する、2モンゴルの五畜、3家畜の恵み、4家畜を世話する、5遊牧民の食事、6仏教、7シャマニズム、を作成した。

第1部では、絵の中の道具の存在にすぐに気づく方がいる一方、気づかぬままの方もいらしたようだ。反省すべきだった点は、絵の中の道具と資料を結びつける視覚的導線が不十分だったことである。今後、展示をより楽しめるようにマークや、クイズ形式のワークシート等を使い、気づきを導けるような工夫を行いたい。

第2部『『モンゴル大草原 800 年』—モンゴルの歴史』
『モンゴル大草原 800 年』（絵本②）は、ボロルマー



図4 ゲルの外観をイメージ

氏とガンバートル氏が準備期間を含めて6年もの歳月を費やして制作された絵本である。チンギス・ハンの登場からモンゴル帝国時代、社会主義時代を経て現代までの歴史を9つの時代に分けて、800年にわたるモンゴルの歴史を紹介している。見開き1頁の中に絵巻物のように複数の場面が展開する構図が取られ、その時の人々の生活やモンゴル軍の軍隊の様子、『東方見聞録』に記されたカラコルム宮殿の様子など、それぞれの場面にプラスαの要素が加えられている。そこが、この絵本の非常に興味深い所であり、読者は何度見ても新たな発見をさせられる。また、清国から独立して首都がウランバートルに定まってからの23頁以降、その描写は定点観察のような手法が取り入れられ、時代が経るにつれて都市の様子が変遷する過程がわかるようになっている。

第2部では、9つの時代の中から6つの時代を選び、チンギス・ハン時代からのモンゴルの歴史を概観した。絵本ではもともと年代表示しかなかったた

め、次のようにその時代を表す言葉と時代を小タイトルとした。

- 1 チンギス・ハンの登場 13世紀初め（絵本② 2-3頁）
- 2 モンゴル帝国の拡大 13世紀（絵本② 6-7頁）
- 3 草原の都カラコルムの繁栄 13世紀（絵本② 10-11頁）
- 4 チベット仏教の広がり 17～19世紀（絵本② 18-19頁）
- 5 社会主義の時代へ 20世紀（絵本② 26-27頁）
- 6 民主主義の国へ 1980年代～現代（絵本② 30-31頁）

このコーナーでは絵本原画を展示したが、多くの方が見やすいように拡大画像パネルを壁面に貼り、さらに原画に描きこまれたさまざまなテーマについて説明するための絵解きパネルを作成した。このパネルは、説明する箇所を見つけやすくなるように、それ以外の部分は乳白色をかけてぼやかすように工



図5 壁面中央が原画の拡大、右が絵解きパネル

夫した（図5）。

解説パネルでは、絵本の該当ページのガンバートル氏による文章（津田紀子氏訳）とともに、その時代背景を説明した。展示資料としては、その時代を象徴するものや、絵本に描かれているものを展示した。時代1では、遊牧民の機動力となった馬の馬具、2では絵本に描かれているゲルを牽く牛車と兜、3ではモンゴル帝国時代に流通した銀錠や至元通行宝鈔等、そしてこの時代に様々な宗教がモンゴル帝国にもたらされたことを示すため、中国内蒙古自治区にある都城址のオロンスム遺跡から出土したキリスト教建築物の一部等を紹介した。4でチベット仏教の仏具とオロンスム遺跡出土の仏塔や仏像、文書、5ではレーニン像や社会主義時代のバッジ。6のコーナーでは、原画は1971—1999年の時代を描いていたため、そこに描かれている現在にも残る建物の写真をパネルにした。撮影はモンゴルに滞在中だったボロルマー氏に依頼した。モンゴルでは社会主義時代の建物が今でも多く残っているので、この現在の写真を見ながら十数年前に旅行に行かれた思い出話をされる方々も多くいらした。

絵解きパネルは、あまりなじみのないモンゴルの歴史、特にモンゴル帝国時代から現代までの歴史を理解する上で、大変役立ったようである。モンゴルに社会主義時代があったことをこの展示で初めて知ったという方もおられたが、絵本とこのパネルで自然に理解できたと感想をいただいた。アンケート結果では一番印象に残ったコーナーとして、この第2部を挙げられる方が全体の約50%に上った。

第3部「描かれたモンゴルの遊牧生活」

第3部では、『トヤのひっこし』（絵本③）の原画11枚を展示するとともに、モンゴルの近代絵画の先駆者といわれるバルドーギン・シャラヴ（1869—1939）の「馬乳酒のまつり」と「モンゴルの1日」という2つの作品を取り上げた。前者は模写作品を、後者はテーマとなる部分を拡大した画像をパネルに

して紹介した。シャラヴは、モンゴル絵画の中心が宗教画であった時代に、遊牧民たちの生活の様子を記した最初の画家である。その描写方法も1枚の画面の中に複数の出来事を描いたり、絵巻物のような連続性が表現されていたりする。人が落馬したり、つまずいたりといった滑稽な様子や風刺的な表現が見られるので、作者であるシャラヴは「モンゴルのブリューゲル」とも称されている。この特徴ある描き方は、彼の後に続いた多くの画家達に影響を与えたとされ、ボロルマー氏も以前、自分の絵画はシャラヴの描画技法の影響を受けたと語っていた。『モンゴル大草原800年』や『トヤのひっこし』は、この技法が用いられていることがよくわかる原画だったので、比較展示するためにシャラヴの作品は本展でどうしても展示したい資料の一つであった。

シャラヴの両作品は、美術作品としてだけでなく、研究者によって20世紀初頭のモンゴル人の遊牧生活や当時の風習が詳細に表された民族誌的資料としても扱われている。シャラヴの絵を展示する目的は、第1、2部で紹介した生活道具などがシャラヴ作品にも描かれているため、この第3部で観覧者自身が今まで展示された生活道具を絵の中で探してみるという気づきの場にしたいという狙いもあった。

「馬乳酒のまつり」という作品は、その年初めてのウマの搾乳を祝い、出来立ての馬乳酒²⁾を楽しむ祭りの様子が描かれている。画面中央には主要テーマである馬乳酒のまつりが描かれているが、その周りには馬乳酒にまつわる様々な出来事が記されている。例えば、画面の左下には子ウマをおとりにしたウマの乳搾り、下部中央にはオスウマの去勢や焼き印を押す様子、左上には自然の恵みに感謝するために騎乗の男性2人が9つの穴のついた匙で馬乳を天地に振りまく儀礼などである。展示資料としては、馬乳酒を作るための皮袋や儀礼用の匙、馬頭琴、シャラヴ作品にも描かれたハルハ族の女性民族衣装等を展示した。

「モンゴルの1日」は、夏の暮らしを描いた「馬

乳酒のまつり」と対をなす作品で、秋の1日を表しているといわれている。この作品のテーマは、フェルト作りや宿営地の移動とそれに伴うゲルの解体と組立という遊牧民の生活、狩猟、牧畜、農業、林業という生業、そして生命の誕生から結婚、病、死までの人の一生という3つである。本展では、特にゲルの組立解体、結婚と死の場面をパネルにして、説明をつけて紹介した。

3. 関連企画

本展では、モンゴル遊牧文化をより身近に、深く理解してもらうことを目的に会期中に講座や体験事業など様々な関連企画を実施した。

(1) 實方剛写真展「獣医師の診たモンゴル国の野生動物と遊牧民の暮らし」

横浜市在住の獣医師である實方剛氏の写真展を当館1階のギャラリー及び旧第1玄関にて開催した。實方氏は、獣医師としてモンゴル国にて野生動物の調査や遊牧民と共に家畜の健康管理などに取り組まれたほか、絶滅したモウコノウマ（モンゴル国で発見された野生馬）の野生復帰化プロジェクトにも参加され、長年モンゴルでの野生動物に係る活動に従事されてきた。ライフワークとして「獣医師の診た動物」の視点から写真を撮影されている。筆者が實方氏を存じ上げるきっかけは、2024年2月によこはま動物園ズーラシアにてモウコノウマ来園記念として開催された實方氏の写真展と講演会に参加したことであった。同園では現在3頭のモウコノウマが飼育されており、国内では他に多摩動物公園で飼育が行われている。

企画展では遊牧生活の様子は絵本原画の中で目にすることができるが、現代遊牧民の生活をよりリアルに理解するには写真で紹介する必要があると思います。實方氏に当館での写真展実施を依頼した。ボロルマー氏の『トヤのひっこし』原画には多くの野生動物も描かれている。写真展のテーマは實方氏と相談の上、野生動物と遊牧民の暮らしという設定にし、

31点の写真作品を展示した。写真作品のほか、モウコノウマが原画に描かれているため、よこはま動物園ズーラシアから飼育中のモウコノウマの情報や画像をご提供いただき、パネルで紹介した。会期中、實方氏はボランティアでご自身の写真を観覧者に解説してくださった（図6）。遊牧民と生活を共にしてきた氏の解説は観覧者の遊牧生活に対する興味や理解を促進させ、展示への満足度を高めた。

(2) イベント「ゲルに集まれ！」

5月10日に当館に隣接する横浜市情報文化センター1階の情文プラザで実施した。内容としては①ゲルの組立・解体（参加者552人）②モンゴル絵本のおはなし会（参加者102人）③モンゴルの民族衣装試着体験（参加者217人）を行った。

ゲルの組立解体は、公益社団法人日本モンゴル協会の協力を得て行った。午前9時頃から組立を開始し、お昼頃に完成。午後3時30分頃から解体。途中に同協会理事長の窪田新一先生によりゲルやモンゴルについて複数回解説をいただいた。ゲル組立の一部では、見学者も参加し、素材の感触や重さを実感してもらった（図7）。

モンゴル絵本のおはなし会では、ボロルマー氏とガンバートル氏の絵本作品をガンバートル氏がモンゴル語で読み、日本語を市内中区の読み聞かせグループ「ことりの会」が行った。小学校低学年の児童から大人まで参加していたが、初めて聞くモンゴル語の響きに皆熱心に耳を傾けていた。ボロルマー氏にはモンゴルの手遊びなどを紹介いただき、当館と同じ区内にある中図書館からは図書館で読めるモンゴルの絵本を紹介いただいた（図8）。

「モンゴルの民族衣装試着体験」では、子どもだけでなく大人も試着を楽しみ、家族で体験する方もいた。試着することで、モンゴルの衣装が気候や生活に適したものであることを感じられていた。実施には横浜市歴史博物館の活動ボランティアの協力を得た。



図6 實方氏による写真展の解説



図7 イベント「ゲルに集まれ!」研究者によるゲルの説明



図8 イベント「ゲルに集まれ！」皆でモンゴルの手遊びを楽しむ

実施日は雨天予報だったため、前日に急遽、会場を室内に変更したが、小学校保護者用配信「すぐる」の効果や絵本作家による集客もあり、多くの参加者が集まり、モンゴルの生活文化を様々な形で体験し楽しんでいた。

(3) 関連講座「現代のモンゴルを知る」

企画展では、今から一昔前のモンゴルの生活文化を扱ったため、現代のモンゴルを十分に伝えられることができない。そのため、モンゴルをフィールドとする文化人類学研究者による講座を横浜市開港記念会館にて2回実施した。

第1回「モンゴル遊牧民の生活世界にあるモノー利用をめぐる交渉術」6月15日（日）

講師：堀田あゆみ氏（立命館大学サステイナビリティ学研究センター客員研究員）

第2回「現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ」6月21日（土）

講師：島村一平（国立民族学博物館教授）

(4) トークイベント「『モンゴル大草原 800 年』ができるまで」

絵本作家ボロルマー氏とガンバートル氏によるトークイベントを5月11日に横浜市開港記念館にて実施した。ボロルマー氏が日本語で発表し、ガンバートル氏のモンゴル語を通訳してくださった。発表では、絵本の製作秘話と、幼い時に体験した遊牧生活や社会主義時代の実体験などを語っていただいた。

その他、会期中にギャラリートーク（展示解説）とモンゴルの民族衣装試着体験を定期的に行なった。

4. 展示の成果

近年、絵本は子供のための読み物としてだけでなく、様々な役割をもつメディアとしてとらえられて

きている。2025年2月に刊行された、東京と安曇野のちひろ美術館設立者である松本猛氏が著した『絵本とは何か—起源から表現の可能性まで』³⁾で、歴史を描くうえで、絵本という形態が文章では書けない視覚情報を伝えられる優れた媒体⁴⁾と評価し、絵本の可能性について、視覚情報が大きな役割を果たす絵本は、世界の文化を伝える力を持ち⁵⁾、さまざまな人種や民族や国・地域の文化の懸け橋と役割を担うことが期待される⁶⁾、と今後の多文化共生の時代に絵本が果たす役割を示している。

本展のアンケート調査によると、展示に対する満足度は99.6%に達し、観覧者からは絵を通して遊牧生活の様子を知り、子どもと大人両方が興味を持つてみる事ができた、モンゴルの歴史と文化を絵本と実物資料で多角的に見られ、理解が深まった、という感想を多くいただいた。また、第2弾を望む声や他の国の絵本でもやってほしいという希望が寄せられた。このような観覧者の声は、本展が絵本の可能性の一つを具体的に示せたのではないかと考えている。絵本と実物資料を組み合わせて展示することは、絵本の展示、ひいては博物館の展示にとって新たな展示手法である。そして、多文化共生が重要となる今、異なる文化を理解する上で有効な手段であることを認識した。

今回の経験を踏まえて、絵本を使った手法を継続して、今後もユーラシア諸地域の文化を視覚的にわかりやすく紹介する展示を心がけていきたい。

謝辞

本展の実施にあたっては、多くの博物館及び関係者の方々に多大なご協力を頂きました。特に、貴重な原画をお貸しくださったパーサンスレン・ボロルマー氏とイチンノロブ・ガンバートル氏、津田紀子氏、企画段階からご指導とご助言を賜りました小長

谷有紀先生と堀田あゆみ先生、堀田先生には解説パネルやキャプション等の監修も頂きました。ここに記して深く感謝申し上げます。また、本展の開催にあたり、絵本の掲載等にご協力くださった福音館書店および石風社の皆様にも厚く御礼申し上げます。

註

- 1) 本展で用いる「モンゴル」とは、モンゴル高原を対象としたが、第2部の「『モンゴル大草原800年』—モンゴルの歴史」ではモンゴル国の歴史を扱った。
- 2) 馬乳酒は馬の乳を原料とした発酵酒。モンゴル人にとって伝統的な飲み物。
- 3) 松本猛著『絵本とは何か—起源から表現の可能性まで』岩波書店、2025年
- 4) 松本 2025. P. 204
- 5) 松本 2025. P. 217
- 6) 松本 2025. P. 217

《参考文献》

- 小長谷有紀著『モンゴル草原の生活世界』朝日新聞社、1996年
- 小長谷有紀・楊海英編著『草原の遊牧文明—大モンゴル展によせて』千里文化財団、1998年
- 堀田あゆみ著『モンゴル遊牧民 エンフバト一家のモノ語り』TEXNAI、2020年
- 松本猛著『絵本とは何か—起源から表現の可能性まで』岩波書店、2025年
- パーサンスレン・ボロルマー、イチンノロブ・ガンバートル著・津田紀子訳 2025「絵本でつなぐモンゴルと日本—『ゲルと草原の物語』に寄せて」『News from Eurasia: 横浜ユーラシア文化館ニュース』横浜ユーラシア文化館、第41号 4-5頁

Combining Picture Books and Museum Objects: A Report on the Special Exhibition “Tales of Mongolian Ger and Grasslands”

Tamako Takeda



図1 展示チラシ表面（右）と裏面（左） 表と裏をつなげると絵本『モンゴル大草原 800 年』の表紙作品になる



图2 企画展示室図面

企画展「ゲルと草原の物語—絵本原画と生活道具」

資料目録

	資料名	地域・民族	時代	所蔵先 (所蔵番号)
第1章 『ぼくのうちはゲル』—草原の遊牧生活				
1	男性用帽子	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0033639)
2	男性用長衣	中国 内モンゴル自治区/民族 モンゴル	1989 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0170677)
3	男性用腰帯	中国 内モンゴル自治区/民族 モンゴル	1989 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0170678)
4	男性用靴	地域 モンゴル国/民族 プリヤート	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203451)
5	女性用靴	地域 モンゴル国/民族 プリヤート	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203462)
6	ラクダの荷物用鞍	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0063976)
7	搾乳用桶	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201917)
8	搾乳用桶	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0205609)
9	蓋付き桶	地域 ロシア/民族 プリヤート	1981 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0088387)
10	干しチーズ (模型)			豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
11	チーズ乾燥用板	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0205672)
12	馬乳酒入れ	地域 中国新疆ウイグル自治区/民族 モンゴル	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0207529)
13	磚茶	地域 中国内モンゴル自治区 またはモンゴル国/民族 モンゴルか	1975 年受入	国立民族学博物館蔵 (K0004290)
14	鍋	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
15	五徳	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201981)
16	火ばさみ	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201980)
17	お茶用 水差し	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0063909)
18	お茶用 水差し		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
19	椀		20 世紀収集	横浜ユーラシア文化館蔵
20	銀椀		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
21	シャガイ	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0205547)
22	鐙	中国 河北省 張家口/民族 モンゴル	1982 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0101424)
23	ウマの汗取りペラ	地域 モンゴル国/民族 ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0033669)
24	仏棚	地域 モンゴル国	2011 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0269573)
25	灯明皿	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187302 ~ H0187305、H0187307)
26	灯明皿	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187303)
27	灯明皿	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187304)
28	灯明皿	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187305)
29	灯明皿	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187307)
30	祈祷用具 (マニ車)	地域 ロシア/民族 プリヤート	1981 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0088389)
31	祈祷用具 (マニ車)	地域 ロシア/民族 プリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187291)

32	経典		地域	モンゴル国/民族	モンゴル	1996 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0203558)
33	タンカ		地域	ロシア/民族	ブリヤート	1992 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0187256)
34	携帯用護符		地域	モンゴル国			個人蔵
35	香炉		中国	内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1980 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0086879)
36	香		地域	モンゴル国か/民族	モンゴルか	2016 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0279202)
37	香水入れ		地域	モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0201943)
38	精霊像 魚 (複製)		地域	ロシア/民族	ブリヤート	1979 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0065658)
39	精霊像 人 (複製)		地域	ロシア/民族	ブリヤート	1979 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0065654)
40	嗅ぎ煙草入れ					20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
41	嗅ぎ煙草入れ		地域	中国 内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1989 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0170700)
42	嗅ぎ煙草入れ		地域	モンゴル国		2011 年受入	国立民族学博物館蔵 (H0269987)
43	嗅ぎ煙草入れ用袋		地域	モンゴル国/民族	モンゴル	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203481)
44	煙管					20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
45	煙管入れ		中国	内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201505)
46	火打ち具					20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
47	子ヒツジ用哺乳瓶		地域	中国内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1989 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0170671)
48	子ヒツジ用哺乳瓶		地域	モンゴル国		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
49	餌箱		地域	中国新疆ウイグル自治区/民族	モンゴル	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0207532)
50	牛糞 (模型)						豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
51	牛糞用熊手		地域	モンゴル国/民族	ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0063980)
52	牛糞籠		地域	モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0202019)
53	牛車 (玩具)		地域	モンゴル国/民族	ハルハ	1997 収集	国立民族学博物館蔵 (H0205618)
第2章 『モンゴル大草原 800 年』—モンゴルの歴史							
54	馬用の鞍		中国	河北省 張家口/民族	モンゴル	1982 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0101421)
55	ハミ		地域	中国河北省張家口/民族	モンゴル	1982 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0101429, H0101430)
56	ハミ		中国			戦国時代 (紀元前 5 ～ 前 3 世紀)	横浜ユーラシア文化館蔵
57	ゲルをひく牛車 (模型)		地域	モンゴル国/民族	ハルハ	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0205655)
58	鉄製胄		地域	中国内モンゴル自治区		1935 年収集か	東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.84)
59	成吉思皇帝聖旨牌子 (写真パネル)		中国・旧熱河省出土			13 世紀	天理大学附属天理参考館
60	銀錠		中国			元 13 世紀	日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵 (IB チウ n 1 39-1)
61	銀錠		中国			元 天暦 2 年 (1329) 鑄造	日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵 (IB チウ n 1 39-5)
62	至元通行宝鈔 (複製)		中国			元 13 世紀 至元 24 年 (1287 年)	台東区立書道博物館蔵
63	「蒙古軍万古府徑理司印」朱文方印		中国			元 13 世紀	台東区立書道博物館蔵
64	白釉丸瓦		中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡			東京大学東洋文化研究所蔵 (10095,10096)
65	塑造人物像頭部		中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡			東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.135)

66	塑造人物像胴部	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	中国内モンゴル自治区	東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.134)
67	彩釉龍文軒丸瓦	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	中国内モンゴル自治区	東京大学東洋文化研究所蔵 (10083)
68	鬼面文軒丸瓦	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	中国内モンゴル自治区	東京大学東洋文化研究所蔵 (10001)
69	磚	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	中国内モンゴル自治区	東京大学東洋文化研究所蔵 (177.10367)
70	磚	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	中国内モンゴル自治区	東京大学東洋文化研究所蔵 (10331.10330)
71	僧侶用帽子	地域 モンゴル国/民族	モンゴル	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203379)
72	僧侶用帽子	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203403)
73	宗教儀礼用シンバル (ツァン)	地域 中国内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0207841)
74	宗教儀礼用ラッパ	地域 中国内モンゴル自治区/民族	モンゴル	1997 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0207842)
75	数珠	地域 ロシア/民族	ブリヤート	1981 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0088411)
76	オロンスム文書 (モンゴル語仏典)	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡	16-17 世紀	横浜ユーラシア文化館蔵 (03-MS0006)
77	泥塔	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡		東京大学総合研究博物館蔵 (EG03)
78	磚仏	中国内モンゴル自治区	オロンスム遺跡		東京大学総合研究博物館蔵 (G03.12)
79	磚仏				東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.14)
80	磚仏				東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.15)
81	磚仏				東京大学総合研究博物館蔵 (EG03.17)
82	磚仏				東京大学東洋文化研究所蔵 (2127)
83	レーニン像	地域 モンゴル国			個人蔵
84	書籍『日本人のことば』				個人蔵
85	詩集『お父さんお母さんぼく』				個人蔵
86	O. ソドノムドルジの全集				個人蔵
87	ピオネール・バッジ	地域 モンゴル国		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
88	ピオネール・バッジ	地域 モンゴル国		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
第 3 章 描かれたモンゴルの遊牧生活					
89	馬乳酒用 袋	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201985)
90	馬乳酒用攪拌棒	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201986)
91	儀礼用匙	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201966)
92	馬乳酒用椀	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1995 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0201975)
93	木碗	地域 モンゴル国		20 世紀収集	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
94	馬頭琴	地域 モンゴル国ウランバートル市		1960 年代制作	豊岡市立日本・モンゴル民族博物館蔵
95	「馬乳酒のまつり」(模写) B. シャラグ (1869-1939) 作	モンゴル		1910 年代 (模写 2001 年制作)	国立民族学博物館蔵 (原資料はモンゴル国立ザナバザル記念美術館が所蔵) (H0224334)
96	「モンゴルの 1 日」(模写・複製) B. シャラグ (1869-1939) 作	モンゴル		1910 年代 (模写 2001 年制作)	国立民族学博物館蔵 (原資料はモンゴル国立ザナバザル記念美術館が所蔵) (H0224333)
97	女性用上衣	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203388)
98	女性用上着	地域 モンゴル国/民族	ハルハ	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203386)

99	女性用頭飾り	地域	モンゴル国／民族	ハルハ	1978 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0063903)
100	男女兼用帽子	地域	モンゴル国／民族	ハルハ	1996 年収集	国立民族学博物館蔵 (H0203449)
絵本 原画						
	書名	書誌情報				所蔵
101	原画『モンゴル大草原 800 年』表・裏紙	イチンノロブ・ガンバートル 文　バーサンスレン・ポロルマー 絵 津田紀子 訳／福音館書店／2018 年				個人蔵
102	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.2-3					個人蔵
103	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.4-5					個人蔵
104	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.6-7					個人蔵
105	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.10-11					個人蔵
106	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.18-19					個人蔵
107	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.26-27					個人蔵
108	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.28-29					個人蔵
109	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.30-31					個人蔵
110	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.32-33					個人蔵
111	原画『モンゴル大草原 800 年』pp.36-37					個人蔵
112	原画『トヤのひっこし』表・裏紙	ガンバートル 文　ポロルマー 絵　津田紀子 訳／ 福音館書店／2015 年				個人蔵
113	原画『トヤのひっこし』pp.2-3					個人蔵
114	原画『トヤのひっこし』pp.8-9					個人蔵
115	原画『トヤのひっこし』pp.10-11					個人蔵
116	原画『トヤのひっこし』pp.14-15					個人蔵
117	原画『トヤのひっこし』pp.16-17					個人蔵
118	原画『トヤのひっこし』pp.20-21					個人蔵
119	原画『トヤのひっこし』pp.22-23					個人蔵
120	原画『トヤのひっこし』pp.24-25					個人蔵
121	原画『トヤのひっこし』pp.26-27					個人蔵
122	原画『トヤのひっこし』pp.30-31					個人蔵
123	原画『トヤのひっこし』pp.32					個人蔵
124	原画『トヤのひっこし』pp.26-30					個人蔵
原画プリント						
125	『ぼくのうちはゲル』p.4	バーサンスレン・ポロルマー 作　長野ヒデ子 訳／石風社／2006 年				安曇野ちひろ美術館
126	『ぼくのうちはゲル』p.6					安曇野ちひろ美術館
127	『ぼくのうちはゲル』p.9					安曇野ちひろ美術館
128	『ぼくのうちはゲル』pp.10-11					安曇野ちひろ美術館
129	『ぼくのうちはゲル』pp.12-13					安曇野ちひろ美術館
130	『ぼくのうちはゲル』p.17					安曇野ちひろ美術館
131	『ぼくのうちはゲル』p.25					安曇野ちひろ美術館
132	『ぼくのうちはゲル』pp.30-31					安曇野ちひろ美術館

横浜ユーラシア文化館紀要 第13号

Bulletin of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures No. 13

2026年3月31日発行

編集 横浜ユーラシア文化館
〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453
<https://eurasia.yokohama-history.org>
発行 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
印刷制作 株式会社TAKT-JAPAN

Edited by the Yokohama Museum of EurAsian Cultures
12 Nihon-odori, Naka-ku, Yokohama, Japan
Published by the Yokohama Historical Foundation
Printed in Japan by TAKT-JAPAN, CO., LTD

ISSN 2758-6332